

① 巖安生『陶晶孫 その数奇な生涯・もうひとつの中国人留学精神史』（岩波書店）

② 陳岡めぐみ『市場のための紙上美術館——19世紀フランス、画商たちの複製イメージ戦略』（三三元社）

③ 木下長宏『美を生きるための26章——芸術思想史の試み』（みすず書房）

① 陶晶孫は郭沫若や郁達夫らと同世代の自然科学者。その生涯を通して、大正デモクラシー期の中国人日本留学生の青春を活写し、時代の息吹

を髣髴とさせる。この世代の中国知識人の人格形成において、日本の旧制高校在学は決

定的な化学的作用を及ぼした。ひとりの文人の生涯は、従来の公式見解が封印してきた文化交流の実相を蘇らせ

る。著者を描いて伍しえない見事な日本語と論理操作の躍動ぶりにも堪能させられる。

ほかの偽名の下に正体を隠したこの人物は、複製腐蝕銅版画の流通を介して、19世紀後

半、隣国フランスの美術投機市場を操っていた。博士論文に基づく本書は、一見周縁的で地味な領域に照明を与えることで、美術という制度の変貌を司る機構を裏面から暴

く、画期的な達成。

者半生の美的体験と省察とのエッセンスが読者を無限の対話へと誘う。